

図書館カレンダー

2月	9 火	休館 (表郷・東)
	10 水	
	11 祝	休館 (表郷・東)
	12 金	休館 (大信)
	13 土	
	14 日	
	15 月	休館 (りづらん・大信)
	16 火	休館 (表郷・東)
	17 水	▷大人向け上映会 『Mの悲劇』(1話) りづらん 13:30~14:20
	18 木	
19 金		
3月	20 土	▷子ども向け上映会 『ぴったんこ!ねござかな』 りづらん 13:30~14:00
	21 日	
	22 月	休館 (りづらん・大信)
	23 祝	休館 (表郷・東)
	24 水	休館 (表郷・大信・東)
	25 木	
	26 金	
	27 土	
	28 日	休館 (東)
	1 月	休館 (りづらん)
2 火	休館 (表郷・東)	
3 水	休館 (りづらん・表郷)	
4 木		
5 金		
3月	6 土	▷大人向け上映会 『大草原の小さな家』 シーズン1「すばらしい収穫」 りづらん 13:30~14:15
	7 日	
	8 月	休館 (りづらん・大信)
	9 火	休館 (表郷)
	10 水	

蔵書点検のため各館休館あり(日程は左上参照)

【各図書館の問い合わせ先/開館時間など】

- りづらん ☎3250/10:00~19:00
- ※土・日・祝日の開館 10:00~17:00
- ※エントランスの開館 9:00~20:00
- 表郷図書館 ☎4784/10:00~18:00
- 大信図書館 ☎4614/10:00~18:00
- 東図書館 ☎41130/10:00~18:00

※最新の情報は、図書館にお問い合わせいただくか、ホームページや館内掲示板をご確認ください。



図書館からのお知らせ

《蔵書点検による各図書館の休館》

蔵書点検では、本の確認・調査・配置変更・移動・修理や、機器の点検などを行います。各館の休館日にご注意ください。
 ▷りづらん 3月9日(火)~18日(休)
 ▷表郷図書館 3月10日(水)~16日(火)
 ▷大信図書館 2月25日(木)~3月3日(水)
 ▷東図書館 3月3日(水)~9日(火)
 ※ブックポストでの返却は可能です。ただし、システムへの反映までに数日かかる場合があります。
 ※表郷・大信・東のブックポストには、CD・DVDを入れな
 いでください。開館している図書館の窓口か、りづらんのCD・DVD専用ブックポストに返却してください。

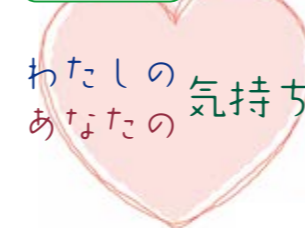
今月のテーマ展示

大人向け



アナログ/デジタル、インドア/アウトドアなど、多種多様なゲームが世界中でプレイされています。今月は、ルールブックに限らず、ゲームをテーマにした本を紹介し、気になったものはぜひ読んで、プレイしてみてください。

子ども向け



笑ったり、泣いたりした時、どんな気持ちだろう。みんなは、どんな時にうれしかったり、悲しかったり、よるこんだりするのかな？
 いろんな気持ちのお話と、気持ちを伝える手紙などの本を集めました。

※ホームページでもオススメの本を紹介しています。

おすすめ新刊

《一般図書》



お椀ひとつで一汁一菜 雑煮365日

松本 栄文

お雑煮といえば、お正月。という気持ちでこの本を開き、驚きました。「なるほど!」「その組み合わせ?」と、初めて見るお雑煮がいっぱい。お正月のお餅でどれを作ろう?と楽しくなる一冊です。

《児童図書》



ぼくと石の兵士

リサ・トンプソン/著 榎田 理絵/訳

オーエンの秘密は、公園にいる「石の兵士(石像)」とおしゃべり。しかし、帰らぬ父を重ねて、心のよりどころにしていた「石の兵士」が撤去されることに！
 困難に立ち向かう少年の物語です。

小峰城よもやま話 第十一話 櫓と門の名前

小峰城には18の門・11の櫓があり、それぞれに名前がつけられた。例えば、中に置く物にちなむと考えられる「太鼓門」「文庫櫓」・建つ場所を示す「田町門」「横町門」・前御門「竹之丸平櫓」・特徴を示した「築出櫓」(堀に突き出た部分にある)などのほか「月見櫓」「雪見櫓」のように風流な名が付くものもあります。

一方で「化粧櫓」「藤門」「清水門」など、由来が明らかでないものもあります。これらの、現在呼んでいる名称は江戸時代後期の「白河城御櫓絵図」などにより、当初は違ったものもあるようです。例えば江戸時代前期、藩主の榊原家の転封時、次の本多家に城を渡した際の記録に「二ノ丸東御門」と記す門があります。この門は現在の「藤門」で、同様に記す絵図があります(下図)。つまり、初めは機械的に「場所+方位」で付けられた例もあったと考えられます。「藤門」の名は、後に付けられたようですが「郭十方位」だと似た名称が複数あって紛らわしいため、個別の名称が付けられたのでしょう。

また「元太鼓門」と「太鼓門」の関係も、文字どおり「元太鼓門」がもとの太鼓門でした。記録では、石垣が崩れそうになり別の門に太鼓を移し、その門を「太鼓門」と改めたとあります。新たに名付けられた「太鼓門」は元々「中之門」と呼ばれていたようです。こうした、櫓や門の名称の変化も、小峰城の歴史を伝える貴重な記録の一つといえます。

文化財課 ☎2310

奥州白河城之絵図 (部分、江戸時代前期の様子を示したもの) (白河市歴史民俗資料館蔵)



渋沢栄一×松平定信 南湖を彩る系譜

渋沢栄一は500の企業創立に関わり、経済分野での活躍が顕著ですが、実は「東京養育院」の運営など、社会福祉事業でも大きな功績を残しています。一方、松平定信も白河藩政と寛政の改革で、福祉政策に尽力しています。定信が白河藩松平家の養子となり、白河に来て最も驚いたことは、他の地方に比べて極端に減少した人口と農村の荒廃でした。困窮のために生まれた赤子を育てられず「間引き」いわゆる赤子殺しをしなければならぬという、悲惨な実状でした。定信は、間引きを防止して領内の人口を増やそうと『絹本著色受苦図』を使って赤子を殺すと地獄に落ちると、農民を教化しようとしたが、これだけでは間引きを無くせないと考え、赤子養育料を支給しました。これは二人目の赤子に、七夜過ぎに金二分、一年後に二分の合計一両を支給する制度です。さらに8年後には、これを二両に増額しています。また、間引きの対象とされた女性の人口が少なかったため、白河藩の飛び地がある越後から女性の希望者を募って白河に引き取り、領内に嫁がせました。定信の家臣の記録には、天明



▲寛政元年(1789)越後から白河藩領への行程図『白河市史』第二巻「近世」より作成



▲絹本著色受苦図(部分)(常盤寺所蔵)